

観賞温室第2室 企画展示

- 9月7日(水)～11月13日(日)  
「工芸と植物展」  
・第1部「暮らしを支える新潟の工芸展」  
9月7日(水)～10月10日(月・祝)  
・第2部「美しい新潟の工芸展」  
10月12日(水)～11月13日(日)
- 11月16日(水)～12月25日(日)  
「クリスマス展」

観賞温室第3室1階 作品展示

- 9月7日(水)～9月19日(月・祝)  
「はなはっぱみ展」  
出展: はなはっぱみ製作委員会
- 9月21日(火)～10月10日(月・祝)  
レカンフラワー「季節の花たち」  
出展: 花はなくらぶ
- 10月12日(火)～10月30日(日)  
「版画&絵てがみふるさとの四季Ⅱ」  
出展: 版画するー会・絵てがみサークル「すずかけ」
- 11月1日(火)～11月13日(日)  
「ニイガタ・ハワイアンキルト」  
出展: 伊藤真里子ハワイアンキルト教室
- 11月16日(水)～12月4日(日)  
「HATSUME(はつめ):  
樹木の香りとにいがたもよう」  
出展: HATSUME(はつめ)
- 12月6日(火)～12月25日(日)  
「クリスマスフラワーデザイン展」  
出展: フラワースクール花舞

9/19(月・祝) 敬老の日のシルバー(65歳以上)  
温室入館無料デー!

10/2(日) 観賞温室入館無料デー!  
「秋の植物園まつり・新潟県都市緑花フェア」  
●オオニバス試乗体験 ●植物素材を使った体験教室  
●園芸相談 ●物販(植物・食品) など  
※詳しいイベントスケジュールは9月上旬に当園ホームページに掲載予定です。

12/4(日) 開園記念日 温室入館無料デー!

花と緑の教室(要予約 開催日の1ヶ月前から電話受付)

- 会場・集合場所/花と緑の情報センター2階(無料入館エリア)
- 9月10日(日)13:30～15:00  
「植物学講座④ 寄生植物の不思議」  
定員:30名/参加費:300円/講師:森田竜義(新潟大学名誉教授)
  - 9月14日(水)13:30～15:00  
「植物園花散歩⑤ 雑草」  
定員:15名/参加費:300円/講師:田中良明(当園職員)
  - 10月9日(日)13:30～15:00  
「植物学講座⑤ 笹の発見と藤の話」  
定員:30名/参加費:300円/講師:柳田宏光(新潟県立植物園友の会)
  - 10月12日(水)13:30～15:00  
「植物園花散歩⑥ 役に立つ植物」  
定員:15名/参加費:500円(温室入館料込み)/講師:林 寛子(当園職員)
  - 11月9日(水)13:30～15:00  
「植物園花散歩⑦ 木の芽」  
定員:15名/参加費:300円/講師:久原泰雅(当園職員)
  - 11月13日(日)13:30～15:00  
「植物学講座⑥」  
定員:30名/参加費:300円/講師:未定
  - 12月3日(土)13:30～15:00  
「クリスマスリースづくり」  
定員:15名/参加費:1,800円/講師:櫛舎道子(Plink&Plonk)
  - 12月4日(日)10:00～11:30  
「自然素材で作るクリスマスリース」  
定員:16名/参加費:300円/講師:新潟県立植物園友の会
  - 12月11日(日)13:30～15:00  
「クリスマスの寄せ植え」  
定員:15名/参加費:2,300円/講師:しばいひろこ(風花\*kazabana)
  - 12月11日(日)13:30～15:00  
「植物学講座⑦」  
定員:30名/参加費:300円/講師:未定
  - 12月14日(水)13:30～15:00  
「植物園花散歩⑧ クリスマスの植物」  
定員:15名/参加費:500円(温室入館料込み)/講師:村田亜希子(当園職員)
  - 12月18日(日)10:00～11:30  
「ミニ門松づくり」  
定員:10名/参加費:1,000円/講師:渡辺弘友(当園職員)
  - 12月18日(日)13:30～15:00  
「クリスマスの寄せ植え:サンタが街にやってきました!」  
定員:15名/参加費:2,300円/講師:ごんだいらあやこ(みどりデザイン研究所)
  - 12月25日(日)10:00～11:30  
「自然素材で作るお正月飾り」  
定員:16名/参加費:300円/講師:新潟県立植物園植物園友の会

◆観賞温室開館日 温室開館時間/9:30～16:30(入館締切16:00) ■ 休館日 ● 臨時開館日

10 October	11 November	12 December
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ・ ・ ・ ・ 1	・ ・ 1 2 3 4 5	・ ・ ・ ・ 1 2 3
2 3 4 5 6 7 8	6 7 8 9 10 11 12	4 5 6 7 8 9 10
9 10 11 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19	11 12 13 14 15 16 17
16 17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26	18 19 20 21 22 23 24
23 24 25 26 27 28 29	27 28 29 30 ・ ・ ・	25 26 27 28 29 30 31

◆観賞温室利用案内 屋外園地無料 小中学生 土・日・祝日無料

	個人	団体(20名以上)	回数券(5回分)	定期券(6ヶ月)	その他
大人	600円	480円	2,500円		●シルバー料金での入館は生年月日を証明できる物の提示が必要となります。 ●高校生・学生料金での入館は学生証の提示が必要となります。 ●身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳所持者は無料となります(等級により介助者無料)。 ■屋外園地無料 ■小中学生 土・日・祝日無料
シルバー(65歳以上)	500円			1,200円	
高校生・学生	300円	300円			
小・中学生	100円	100円			

◆交通アクセス 駐車場無料:350台収容

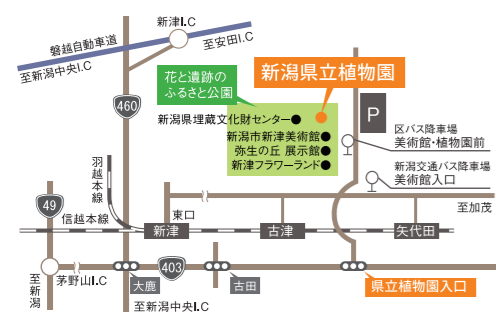
- JR 信越線古津駅下車徒歩約25分
- バス 区バス:新津駅東口から「新津駅西口」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分  
新潟交通バス:新津駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き「新津美術館入口」下車徒歩約10分
- 高速道路 磐越自動車道新津I.Cから国道403号で三条/加茂方面へ約15分
- 一般道路 (新潟方面から) 国道49号から茅野山I.Cを国道403号加茂/新津方面へ

新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地  
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410  
HP http://botanical.greenery-niigata.or.jp/  
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ

f t 情報発信しています

新潟県立植物園 検索



新潟県立植物園 植物園だより

2016 autumn Vol.65



ムベ  
Stauntonia hexaphylla  
アケビ科

ムベ属は、アケビ科の中では常緑性で異色の植物で東亜に広く分布し、約15種が知られている。日本にはムベの1種しか自生しない。

ムベの語源は、昔し宮中に献じられたもので大贄・苞宜といい、オオムベからムベとなったという。また、トキワアケビとも呼ばれ、全体がアケビに似て常緑であるからこの名がついた。ムベは暖地性のつる性木本で庭などによく植えられ、また、さくや垣根にされる。

果実は液果で卵形または楕円形。10月頃暗紫色に熟すがアケビのように開裂しない果肉は白色で甘く美味であるが、黒色の種子が多くて食べにくい。

解説: 富樫信平(抜粋)

※画像はイメージです



燕・三条地域 鋸(左)と鋳起銅器の花器



越後上布・小千谷縮の原料であるカラムシの繊維

板尾てまり



加茂桐箆笥



観賞温室第2室  
企画展示

## 工芸と植物

新潟県には、各地に特色ある工芸品が発達し、現在もその技法が受け継がれているものが数多くあります。「伝統的工芸品」(経済産業大臣指定)は16品目と、京都府に次ぐ全国第2位です。

今回の展示では、関係する県内の各企業、団体にご協力をいただき、植物を材料とした織物や桐製品、園芸産業や農業を支える刃物やはさみなどの道具を、原料となる植物や製作工程など植物の観点から紹介します。

ふだんの生活に寄り添ったものから、現代では芸術品とも称されるものまで、新潟の優れた技術と植物の関わりをこの機会にぜひご覧ください。

第1部「暮らしを支える新潟の工芸」  
9|7(水) — 10|10(月・祝)

第2部「美しい新潟の工芸」  
10|12(水) — 11|13(日)

《展示予定品》

- ◆金属製品(三条市、燕市、長岡市与板地域)
- ◆織物(村上市山北地域、小千谷市、南魚沼市塩沢地域、十日町市、新潟市亀田・小須戸地域)
- ◆漆器(新潟市、村上市) ◆桐製品(加茂市)
- ◆手まり(長岡市板尾地域) ◆レース(上越市)
- ◆和紙(県内各地) ◆紙風船(出雲崎町)



バナナがなりはじめている。赤紫色の苞が開くと中から黄色い花が現れる



バナナの苞と花

園内  
ウォッチング  
(温室)

### ●4mの大きな草?! タイワンバナナ

熱帯植物ドームの中の果樹エリアに、ひときわ大きな葉を茂らせた植物があります。熱帯アジア原産でバショウ科のタイワンバナナです。大型の草ですが、高さが4m程にもなり、まるで木のように見えます。幹のように見えるものは、地下の茎から直接出た葉の柄が幾重にも重なったものです。

柄の先端から垂れ下がる赤紫色の蕾は、花を保護している苞ほうに包まれています。夜になると、外側の苞がめくれて黄色の花が顔を出します。熱帯ではコウモリが花の蜜を吸いに來るので、花序にしがみついた爪痕が残っているそうです。当園のバナナは受粉しなくても実がなりますので、数ヶ月間は花と実の両方を観賞することができます。

熱帯ではバナナの花もサラダや炒め物などで調理し食用にされ、また葉を屋根の材料や皿に使ったりする生活に欠かせない植物です。お越しの際には、バナナの花や大きな葉もご覧いただければと思います。

(小日向美香)

観賞温室第2室  
企画展示

## クリスマス展 11|16(水) — 12|25(日)

夜間開園 ◆ 12|23日(金)・24日(土)

今年も恒例の植物園のクリスマス展を開催します。

大きなクリスマスツリーやポインセチア、クリスマスカクタスなどの鮮やかな彩りの展示は、毎年志向を変えて趣向を変えた演出で大変好評をいただいています。今年も家族やカップルでも楽しめる展示とイベントも企画しています。

寒い冬の季節、温かみのあるクリスマスカラーで飾られた展示を皆様でお楽しみください。



熱帯植物ドームのイルミネーション



昨年のクリスマス展



夜間開園

園内  
ウォッチング  
(園地)

### ●楽しい園内散歩

当園の19.8haの敷地には、ツバキ園、ボタン園、ツツジ園、ハーブ園や宿根草花壇などがあり、10万株の植物が植栽されています。

四季を通じた様々な植物を楽しんでいただくために、正面入口の開花情報板に、園内や温室で花や果実が見られる植物を紹介しています。

また、運営スタッフが園内の見ごろの植物などを紹介する「おさんぽマップ」を年6回(4月、6月、8月、10月、12月、2月)発行しています。初めて来園されたお客様にもわかりやすいように取り上げた植物には番号ラベルがついています。園内入口や建物内のパンフレットスタンドで入手できますので、観賞のお供にご利用ください。

この「おさんぽマップ」で植物園をさらに楽しんでいただくため、新たな提案をしたいと考えています。例えば、桜を中心とした春のお花見散歩コース、夏の水辺の花と昆虫に親しむコースや冬の渡り鳥と冬芽の観察など、季節やテーマによりおすすめの散歩コースを設定し、マップを作成する予定です。今冬に向けて検討していますので、乞うご期待ください。

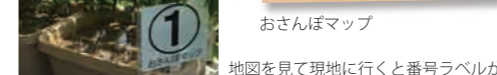
(村田亜希子)



園内開花情報板



おさんぽマップ



地図を見て現地に行くと番号ラベルが

NEWS  
1

秋の植物園まつり・  
新潟県都市緑花フェア

国や県では、都市における緑の保全・創出や都市公園、街路樹の整備等を推進し、住民参加による緑豊かな美しいまちづくりを展開するため、春と秋に「都市緑化月間」を設けています。

当園では秋の都市緑化月間にあわせ、10月2日(日)に「秋の植物園まつり」を開催いたします。植物園の裏側が見られるバックヤードツアー、オオオニバス試乗体験や植物を使った体験教室、クイズラリー、園芸相談、植物販売などイベントが盛りだくさんです。当日は観賞温室入館無料デーとなりますので、熱帯植物ドームや企画展示「工芸と植物」もご覧いただけます。また、広い園地を使った「アキハアウトドアスポーツフェスタ」(主催:新潟市秋葉区)も開催されます。

このほか、隣接する新潟県埋蔵文化財センターや古津八幡山遺跡弥生の丘展示館では「まいぶんまつり」が行われ、火起こし体験や勾玉づくりなどの体験も楽しめます。

10月2日はイベントが盛りだくさんの植物園に是非お越しください。

(村田亜希子)



当日入館無料の熱帯植物ドーム



植物園まつりの様子



県内で作出されたレインボー



県内の育種家、本間正信さん作出の「ロマンスパール」(左)と新潟県作出の「ダンシングスノー」



当園のアザレア展の様子

NEWS  
3

アザレアフェア  
「インドアで楽しむ新潟の花  
～アザレアの魅力～」

アザレアは19世紀末から西欧や国内で改良された鉢植えのツツジの総称で、赤・白・ピンク等の大輪で豪華な花や、冬でも室内で花を楽しめる点などが魅力です。新潟は昭和10年ごろより現在まで全国一の生産量を誇ると共に、数多くの新品種を世に送り出したアザレアのメッカです。当園では保有する日本最大のコレクションを紹介するアザレア展を毎年開催しており、新潟特産の花木を広く知っていただくことで、園芸産業の振興を目指しています。

この度、食と花の世界フォーラム組織委員会ならびに新潟市の主催により、新潟市の食と花の銘産品であるアザレアの認知度向上と需要拡大を図ることを目的に、9月20日～9月23日まで「にいがた花フェスタ～アザレアフェア～」を新潟日報メディアシップで開催します。

期間中22日には、「インドアで楽しむ新潟の花～アザレアの魅力～」と題して、新潟市出身の俳優でNHK「趣味の園芸」ナビゲーターの三上真史さんと当園副園長の倉重によるクロストークや寄せ植えなどの実演を行います。次号で様子を報告いたしますので、お楽しみに。(渡辺弘友)

NEWS  
2

植物と食文化講座

当園では年に2回、身近な食事から植物に親しんでいただくために食文化講座を開催しています。

6月12日には、秋葉区のカフェゲオルクの小林みどりさんを講師にお迎えして、ワークショップ形式で、コーヒーの産地による味の違いや、お菓子との相性(フードペアリング)を飲んで食べて体験する「違いのわかるコーヒー教室」を開催しました。私からは種類による花や葉、豆の特徴やコーヒーノキの育て方の解説をしました。鉢植えのコーヒーノキから取ったタネも持ち帰っていただきましたが、参加者から芽が出たとの報告もいただいています。

6月22日には、今年3月にオープンした三条スパイ

ス研究所を会場にして、ディレクターの山倉あゆみさんを講師に「日本のスパイスと食文化」のお話をさせていただきました。私からは「スパイス戦争」と題して、コショウ争奪の歴史を解説しました。講演後には、研究所所長で、東京押上スパイスカフェ伊藤一城シェフ監修のレシピで作るスパイス料理をいただき、充実した講座となりました。

これからは新潟の在来の果樹や野菜等の園芸作物や食文化を守り、皆さんと新しい利用法を探ることで、地域農業の活性化や食育、新しい産業への貢献も目指していきたいと考えています。(倉重祐二)



違いのわかるコーヒー講座



コーヒー教室で試食した手作りお菓子



スパイス研究所での日本のスパイスと食文化講座



新潟の打ち豆などを使ったスパイス料理



国指定天然記念物の類産。根本の幹周は2.4mもある



類産の果実

樹齢約二百年、樹元周囲長二、四m  
 樹高一、八m、地上1mのところから六本の  
 大枝に分かれる。開花期は四月末、果実は卵型  
 で翌年六月頃まで貯蔵に耐える。  
 この地の製糖の歴史は、文化年間、大船当の  
 深沢剛蔵氏が上野園より苗を求めて植えたのが  
 始まりとされている。  
 しかし、文政の越後大地震、天保の大飢饉など  
 の天災もあり、庶民の生活は難しく、梨の需要  
 は伸び悩み、製糖は容易には普及しなかった。  
 このような状況においても、剛蔵氏は研究を  
 続け、次第に収量を上げるようになり、これに  
 倣って他にも栽培する者が出てきた。  
 その後、利益の上がる産地が始まり、製糖は  
 一時低迷したが、一部の熱心な農家が先進地  
 千葉方面の製糖技術を視察研究し、明治十年頃  
 から本格的に栽培することとなり、大正期には  
 栽培面積も六十町歩にまで広がることになった。  
 平成十五年四月  
 新潟市教育委員会

新潟市教育委員会の説明看板

## NHK新潟ラジオセンター「朝の随想」セレクション

# 洋ナシと江戸時代のナシ

(2014年12月8日放送)

11月22日に洋ナシのルレクチエの出荷がはじまりました。県内の皆さんご存知だと思いますが、これが県外になるとほとんど知られていません。植物関係の洋ナシ好きの友人に聞いてみても、ラ・フランスは知っていても、ルレクチエのことは誰も知りませんでした。

何を隠そう、私も新潟に来るまではルレクチエを知りませんでした。そもそも新潟がナシの産地であるとも思っていませんでした。それもそのはずで、新潟の生産量は全国7位、全体の5%に過ぎません。

洋ナシだけで見ると、山形、長野、青森に続いて、新潟は第4位、生産されている品種ですと、ラ・フランスが洋ナシの6割以上、次いでパートレット、第3位がルレクチエとなります。収穫期も遅く、10月の中旬で、さらに追熟、収穫してから一定期間保存して熟させるのですが、これに40日ほどかかります。そのため、出荷は11月下旬になります。

ラ・フランスは本場のフランスでは、すでに生産されていないと、何かで読んだことがあります。フランスにいる友人にルレクチエが販売されているのかを調べてもらいました。返事は、ナシの専門書には品種名はあげられているようですが、売られているのは見たことがないということでした。明治15年につくられた品種ですので、本家ではもうつくられていないのかもしれない。

さて、ナシ栽培の歴史を調べてみると、新潟は重要な場所であったことが分かります。

一つは、江戸時代、1782年に新潟市南区の阿部源太夫が書いた、梨栽培の秘伝書、「梨栄造育秘鑑」です。これを読むと剪定や棚づくり、貯蔵から販売まで、現代でも通用する高い技術があったことが分かります。ここには100品種ほども解説されていますが、この中に「類産」という品種があげられています。

「類産」と言えば、新潟市南区に、国の天然記念物に指定されている「月潟の類産ナシ」があります。この木は、1800年代のはじめに南区の深沢氏が千葉県から導入したと伝えられています。所有者にお願いして、植物園の展示と食文化講座の材料として分けいただきました。江戸時代の本には、甘みは中くらいで、酸味は少ないとありますが、食べてみると、時期が早かったこともあってか、ほとんど味はしませんでした。

江戸時代の人は今よりも微妙な味を感じることでできる味覚を持っていたのだと思った次第です。(倉重祐二)



カナムグラ



雌花



雄花

## 新潟の植物

# カナムグラ

*Humulus scandens*

人里近くに生えるつる性の一年草。茎や葉柄には下向きの刺毛がある。葉は掌状に深く5から7裂する。生育が旺盛で、かなり強面の草であるが、9月から10月にかけて雄花は大きな円錐状の花序に優し気な花を咲かせる。雌花穂は数個から十数個の苞片からなる小球状であり、注意深く観察しないと花には見えない。ビールの苦み原料であるカラハナソウ(ホップ)も同じ属の植物であるので、良く似た花を咲かせる。テレビや雑誌でたびたび紹介されるので知っている方もおられると思う。

子供のころには要注意の草だった。野球のボールがこの藪に入り刺毛に手足を引っかかれ痛い目に合った思い出を持っている方も多いはずだ。以前には信濃川の土手や河川敷、大きな農業排水路の法面など、草刈りがされない場所などにいくらでも生えていたものだが、いまでは、こういった場所の草刈り作業が徹底されているせいか、あまり目にするのができなくなった植物のひとつである。(田中良明)

## 花と緑の相談コーナー

# 植物Q&A

Q

なぜ、秋になると木々が紅葉するのですか。

A

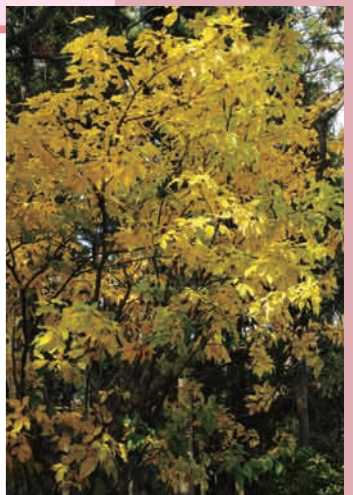
秋になって落葉広葉樹が紅葉するのは、冬を迎える準備と言って良いでしょう。春から成長した緑色の葉も秋になって気温が低下してくると老化が始まって、紅色、黄色、褐色に変わってきます。この現象のことを紅葉と呼んでいます。

一日の最低気温が8℃以下になると落葉広葉樹の葉が紅や黄に色づき始めて、さらに5℃以下になると一気に紅葉が進むと言われています。この時の色の変化には、葉の中にある葉緑素のクロロフィルと黄色色素のカロテノイド、そして葉の老化の過程で作られる赤色素アントシアニンが関係していると言われています。

カエデ類を紅葉させるアントシアニンは元々葉の中に含まれておらず、気温の低下によってクロロフィルやカロテノイドなどが分解されて赤色素のアントシアニンが形成されて紅葉するのです。

イチョウなどの黄葉は、気温の低下によってクロロフィルが分解されて減ってくると緑色が薄くなって、元々葉の中にあつたカロテノイドが優勢になって黄色になってきます。

植物によって、紅葉の色が紅色、黄色、褐色といろいろ異なるのは、その植物の遺伝子や気温等の自然条件の違いが複雑に絡み合った結果と言えます。(園芸相談員 田中秀明)



黄葉が美しいタカノツメ



ドウダンツツジ(手前)と木々の紅葉



色づきはじめたコマユミ

※これまで当園に寄せられた植物に関する相談を(公財)新潟県都市緑花センターの植物Q&Aシステム(<http://www.greenery-niigata.or.jp/qa/>)で公開していますので、ぜひご利用ください。